

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に取り組む場面が増え、深く学ぼうとする生徒が増えた。
- ・ペアやグループで考える時間が増え、音楽に対する意識が変わった。
- ・指導におけるアドバイスをした際に教科書や楽譜にメモをとる姿勢が見られる。

(2) 課題

- ・ICT機器による課題提出の徹底。
- ・音楽記号の知識・理解、読譜力の向上。
- ・歌唱の姿勢、発声方法の向上。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱の好きな生徒が多く、意欲もあり、元気に合唱することができる。発声等の技能や音楽の基礎知識は、これから定着させていきたい。	曲を聴いたり、どのように歌うか考えたりできる生徒が多いが、それを実践することができる生徒は少ない。	意欲をもって取り組む生徒が多い。課題にも積極的に取り組んでいるが、提出を忘れがちな生徒が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
行事前には意欲的に歌うことができている。発声、息の使い方はまだ練習していく必要がある。音楽の基礎知識はもう少し力を入れて取り組んでいきたい。	旋律やリズムを聴いて、それを元に考えることがあまりできていない。歌唱の表現はよく考えることができているが、実際に表現する技術が伴っていない。	全体として集中力の続かないことが多い。提出物はコンスタントにできる生徒が少ない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱が好きな生徒が多く、発声がしっかり行える生徒は増えてきた。音楽の知識は定着し始めている。	曲を聴いたり、どのように歌うか考えたりできる生徒が増えてきた印象である。歌唱の表現を付けて歌えることができるようになってきた。	取り組もうとする意欲はあるものの、それが継続することができていない。提出物も取り組んでいるが、内容が薄いものが見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発声・ブレストレーニング等、身体づくりの時間を取り、正しい発声・発音を身に付けさせる。	音楽を構成している要素（速度、旋律、テクスチャ、強弱）を理解できるようにする。	歌唱指導の際、男子生徒は特に変声期を乗り切らせるために発声練習に気をつけて行っていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正しい発声・発音を見直し、確認を行う。また、自分の出している音と、全体の響きを意識し、合唱の技能を向上させる。	音楽を聴き、感受・知覚したことを自分の言葉で表現できるようにする。	歌唱だけでなく、音楽の様々な活動が連鎖しているということに気づき、目的意識をもたせて活動する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・正しい発声・発音の徹底を図る ・楽譜に書かれた音楽記号のイメージを強くもち、具体的に考えながら演奏する技能を身につける。	・発表できる機会を多く設定し、発表することに慣れさせる。 ・生徒が判断し決定できるようにし、選択の幅を広げる工夫を行う。	・課題と目標を明確化し、何に取り組んでいるのか理解しやすくする。 ・提出期限をもう少し明確化し、期限内で主体的に学習活動できるように意識させる。